



第1回 笛吹音楽祭

2007.11.23-25
笛吹市スコレーセンター

■主催：笛吹音楽祭運営委員会 ■共催：(財)いさわ文化・スポーツ振興財団
■後援：山梨県／山梨県教育委員会／笛吹市／笛吹市教育委員会／笛吹市観光連盟／山梨学院大学
■協賛：石和温泉旅館協同組合
■助成：(財)やまなみ文化基金支援事業／NPO 法人山梨メセナ協会(山梨芸術文化支援協会)
新都市設計株式会社／白百合醸造株式会社／プライダルビレッジ ミラベル



F U E F U K I M U S I C F E S T I V A L



(財)いさわ文化・スポーツ振興財団 理事長
笛吹市長
荻野 正直

ようこそ「第1回 笛吹音楽祭」にお越しくださいました。

音楽を愛する市民が中心となり、そこに行政、各種団体、企業、ボランティアなどの多くの協力を得て開催する手づくりの音楽祭の開幕です。

音楽監督に藤原義章氏を迎え、氏がこれまで創立にかかわった音楽祭を通して一貫してきた“音楽にプロとアマの違いはない”“演奏の参加資格は一切問わない”という姿勢が基本となっており、技術や年齢を超えた出会いや発見が、新たな可能性を引き出すのではないかと期待しています。

会場名にある「スコレー」とは、古代ギリシャ語に起源を持ちスクール (School) の語源でもあるといわれており、その意味は「余暇」「遊び」「学び」。学習を通して市民が経済的にも豊かになり、自己自身を高め文化を創造し充実した人生を過ごすことを目指している、という意味があります。

出会いや発見の喜び、音楽をつくりあげる達成感や充実感、感動……。演奏する人、聴く人、そして運営を支える人、ここに集まるそれぞれが感じ、また再会する。この音楽祭をひとつのきっかけにして、人々の輪が、音楽の輪が地域のまちづくりへ広がっていくことができたらと願っています。



笛吹音楽祭運営委員会委員長
磯野 茂

このたび笛吹音楽祭が実現できたのはまずもって、(財)いさわ文化・スポーツ振興財団と笛吹市の積極的なご支援のおかげであります。そしてその輪が、山梨県、山梨県教育委員会、笛吹市教育委員会、笛吹市観光連盟、山梨学院大学、石和温泉協同組合のご支持、ご後援とつながりました。さらに、(財)やまなみ文化基金支援事業、山梨メセナ協会、新都市設計(株)、白百合醸造(株)、プライダルビレッジ・ミラベルからの助成も賜りました。また実行に際しまして笛吹市太鼓連盟による演奏、高校生によるボランティアのご支援もいただきました。誠にありがとうございます。

音楽監督の藤原義章氏は芳醇な音楽と輝かしい実績のもと田沢湖音楽祭、北甲斐★音楽祭などの『演奏する人と聴く人がともに楽しむ音楽祭』の創立にかかわってこられた方です。技術や年齢を超えた出会いのなかでメンバーの音楽性を惜しみなく活かしてくださる事と、楽しみにしております。

応募されたオーケストラメンバーは、幅広い年代の方々、また遠方からのご参加も頂きました。ありがとうございます。ご参加の皆様方は多少緊張感があると思いますが音楽監督のもと、心行くまで演奏を楽しんでください。

“笛吹”の名を受けた初日のフルートのアンサンブル、3日間開かれるロビーコンサート、そしてオーケストラコンサートと、甲斐路の秋の素敵な出会いと音楽をご一緒にお楽しみください。

オープニングコンサート

11/23(金)午後2時開演 午後1時30分開場 ホール

フルートアンサンブル 構成：森澤 祥子

1. パンの笛：ドビュッシー

独奏：森澤 祥子

2. 笛吹きたちの休日より 愉快的な笛吹たち：カステレード

岡村 孝子・森澤 祥子・小田切 知恵

3. 三重奏 ト短調：クーラウ 作品 13-2

小田切 知恵・岡村 孝子・森澤 祥子

4. アンダンテとロンド：ドップラー

森澤 祥子・岡村 孝子・奥山 初枝(ピアノ)

5. ロンドンデリーの歌：アイルランド民謡

内村 知美・緒方 倫子・岡村 孝子・小田切 知恵

門野 富美子・益子 友里・松本 寛子・森澤 祥子

ヴァイオリンとピアノ ヴァイオリン：蜷川 いづみ ピアノ：奥山 初枝

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調：フォーレ 作品 13

I アレグロ モルト

II アンダンテ

III アレグロ ヴィヴォ

IV アレグロ クワジ プレスト

展 示

11/23(金)～25日(日) エントランス

絵画：設和 幹

油彩作品

桜<F40号> 老木に華やかに咲き誇る薄紅色の桜からは、人の生きる意味をも感じさせてくれる。

彩<F30号> 紫色の濃淡が美しいリラ、つばみのあずき色、見えかくれする萌葱色の小さな葉、春の暖かい空から光の彩がいつそう冴える。

秋<F20号> 公園の中の通り道に様々な人たちが行き交い、集い、それぞれの時間が通り過ぎて、今の一瞬が明日に向かって行く。

城<F20号> 晩秋のフォンテインブロー城。大きな庭園に赤く染まる木々。

茜<F10号> 赤い大輪の情熱のバラ

躍<F6号> バレリーナ

爛<サムホール> 桜

紫<0号> リラ

水彩作品

チェロ・クラリネット・バイオリン(1)・バイオリン(2)

オーケストラコンサート

11/25(日)午後2時開演 午後1時30分開場 ホール

指揮：藤原義章

演奏：笛吹音楽祭管弦楽団

コンサートマスター：蛭川いづみ

1 交響曲 第5番「運命」第1楽章：ベートーヴェン

2 ワルツ「美しく青きドナウ」：ヨハン・シュトラウス

————— 休 憩 —————

3 交響曲 第4番「イタリア」：メンデルスゾーン

ロビーコンサート

11/23(金)午後6時30分

11/24(土)午後0時30分

11/24(土)午後6時

11/25(日)午後1時

和太鼓演奏

11/25(日)午後0時～午後0時45分 エントランス前広場

甲斐之國御坂天雷太鼓保存会 甲斐いちのみや桃源太鼓

演奏家

藤原 義章：指揮者(音楽監督)

東京都交響楽団の創立団員を経て新日本フィル交響楽団首席ヴィオラ奏者を務めた。イエール大学、ボストン大学で指揮法、ヴィオラ、ヴィオラダモーレを学ぶ。現在、インターナショナルコンセルバトリー、山梨大学、B-box 音楽庵などの講師。田沢湖音楽祭、北甲斐★音楽祭の創立に関与。著書に「リズムはゆらぐ」(白水社)「美しい演奏の科学」「ヴァイオリンとヴィオラの小百科」(春秋社)、など。

蜷川 いづみ：コンサートマスター(ヴァイオリンリーダー)

桐朋学園女子高校を経て、桐朋学園大学卒業。同研究科終了。パリ、エコール・ノルマル音楽院で高等演奏家資格を首席で取得(審査員賞)。新日本フィル団員を経て、東京ユニバーサルフィル管弦楽団のコンサートマスター。ユーオーディア・アンサンブルメンバー。ユーオーディア・アカデミー講師。ソロ・アルバム「泉のほとり」をCDリリース、「レコード芸術」などで絶賛される。

森澤 ^{さちこ} 祥子：フルーティスト(アンサンブルコンサート構成)

国立音楽大学附属高校を経て国立音楽大学卒業。ドイツ、マンハイム芸術大大学院修了。全日本学生音楽コンクール東京大会奨励賞。日本木管コンクール入選(コスモス賞)。日本フルートコンクール奨励賞。新進音楽家デビューコンサート(東京文化会館)に出演。リサイタルや室内楽で活躍のかたわら、甲府市の自宅フルート教室で後進の指導。

佐藤 茜：セカンドヴァイオリン首席

ドイツにて6歳よりヴァイオリンを始める。帰国後、斉藤久美、中山朋子各氏に師事。桐朋学園大学を経て、英国王立音楽院に奨学金を得て留学し、ニコラス・ミラー、ダイアナ・カミングス各氏に師事。音楽院内で多数受賞。現在、「カルテット・カノーロ」メンバー、独奏、オーケストラなどで活躍中。

竹鼻 江美子：ヴィオラ首席

桐朋学園女子高等学校音楽科、桐朋学園大学音楽学部卒業、埼玉県推薦新人演奏会に出演。東京ゾリステンメンバーを経て、フリーランサーとして活躍中。

谷口 節夫：チェロ首席

東京芸術大学卒業。清水勝雄、堀江泰氏、レーヌ・フラショ、青木十良各氏に師事。NHK・FM「午後のリサイタル」に、チェロ・アンサンブル、フルート・トリオで出演。現在、フリーランサーとして室内楽、オーケストラ、弦楽四重奏団「カメラータ・フロイデ」等で活躍中。恵泉女学園非常勤講師。

井上 陽：コントラバス首席

国立音楽大学卒業。コントラバスを西澤誠治、永島義男、池松 宏の各氏に師事。国立音楽大学オーケストラ演奏員を経て、オーケストラ、室内楽、吹奏楽、古楽器、レコーディングなどで活躍中。

奥山 初枝：ピアニスト

桐朋学園子供のための音楽教室を経て、桐朋学園芸術短期大学、同研究科修了。山梨県主催芸術祭最高位(水上財団賞)受賞。これまでに多くの合唱団やソリストと共演し、放送・CD録音などで活躍中。桐朋学園女子部講師。日本キリスト教団阿佐ヶ谷教会オルガニスト。

画家

^{せちわ} ^{みき} 設和 幹

安井賞展(1973)に出品。パリに滞在、モランタン画廊に常設展示(77～80)。東京セントラル絵画館で個展(84、87、92)。フィナール国際美術館展(東京・パリ、86)。山梨県立美術館で個展(92、95、2000)麻布美術館招待作家展(95)。日仏現代作家展(97、99、03)。ART IN SOHO 展(ニューヨーク、98)。ギャラリー悠玄(東京、2000)浅の川画廊で個展(金沢、04)。ループル美術館 SNBA 展に招待出品(パリ、06)。イタリア・アート・フェスタに招待出品、受賞。(07)など。現在無所属、日本美術家連盟会員、山梨芸術家協会理事、山人会理事、日仏協会理事、人物画研究会代表。

オープニングコンサートの演奏曲について

フルートアンサンブル

1. パンの笛：ドビュッシー(フランス 1862～1918)

「牧神パンが水の妖精シュリンクスに恋をし、嫌われても追い続け、困ったシュリンクスは水辺の草に変身。想いを断ち切れないパンはその草で作った笛を吹き続け、シュリンクスを偲んだ」(ギリシャ神話)

2. 笛吹きたちの休日より 愉快的な笛吹たち：カステレード(フランス 1926～)

カステレードはパリで生まれ、パリ音楽院で学んだ作曲家です。この曲は、組曲「笛吹きたちの休日」のなかの第4曲で、田園でヴァカンスを楽しむ笛吹たちの楽しげな様子が描かれています。

3. 三重奏 ト短調：クーラウ(デンマーク 1786～1832) 作品 13-2

ピアノのソナチネでおなじみのクーラウ。フルートのための曲も数多く残し、貴重なレパートリーになっています。作風がベートーヴェンに似ているところから“フルートのベートーヴェン”ともよばれています。

4. アンダンテとロンド：ドップラー(ハンガリー 1882～1924)

フルーティストでもあったフランツ・ドップラーは、フルートのための華やかな作品を数多く残しています。ヨーロッパ中で活躍した兄カールとのフルート二重奏のために書きました。

5. ロンドンデリーの歌：アイルランド民謡

アイルランド民謡の中で最も知られている曲です。あたたかい響きのメロディーは様々な編成で演奏され、各国で多くの歌詞がつけられ、歌いつがれています。

(森澤 祥子)

ヴァイオリンとピアノ

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 作品 13：フォーレ(フランス 1845～1924)

ヴァイオリンとピアノが演奏するヴァイオリン・ソナタ。名称からすると、ヴァイオリンが「主」で、ピアノが「従」のいわゆる「伴奏」をするように思いがちですが、じつは、ピアノとヴァイオリンが対等に二重奏をする室内楽の形態です。フォーレはこの形態のソナタを2曲書きましたが、その作曲年月のへだたりは41年もあります。フォーレが31才(1876)に作曲したこの第1番は、フランス近代の数少ない著名な作品のひとつになっています。

フランス歌曲に貢献したフォーレは、それまで有名な「夢のあとに」を含む多くの歌曲やピアノ曲、合唱曲などを出版しましたが、この曲は声楽とピアノ以外の最初の曲です。

フォーレは作曲家であると同時に、ピアニスト、教会オルガン奏者、合唱隊長、教育者、音楽教育視察官、批評家でした。68才(1903)頃から聴覚を失い、晩年はベートーヴェンのようにその障害に苦しみました。パリ音楽院の院長を去って、最後のピアノ演奏のときは、耳は使わず目で鍵盤を追いながら練習したそうです。

この曲の楽章は4つあって、優雅で洗練されたメロディーとデリケートなハーモニーが織りなす第1楽章、歌曲のようにしなやかな憧れに充ちたメロディーの第2楽章、目の回るように速い第3楽章、ただ速いだけでなくメロディーの優雅さとハーモニーの自由さが支配する終楽章が続けて演奏されます。

(J.P.)

オーケストラコンサートの演奏曲について

ベートーヴェン：交響曲 第五番 ハ短調 Op.67 「運命」

ベートーヴェン(1770-1827)の交響曲第五番は現在どんなにクラシック音楽になじみのない人にも知られている超有名曲です。冒頭第一楽章の開始があまりにも強烈で「何?、クラシック?運命、ジャジャジャジャー ね」とクラシック音楽をあまり好きでない人からは言われてしまいがちですが、これは間違っています。「運命」という名前は日本のレコード会社が勝手につけた名前前で日本以外では通用しません、テーマは「ジャジャジャジャー」ではなく前に8分休符のついた「ンジャジャジャジャー」なのです。交響曲第五番はベートーヴェン38歳ころ、傑作をつぎつぎと生み出していた最盛期に作曲されています。といっても1803年ころから5年間もかけて慎重に推敲を重ねて1808年に発表したわけで、その間に交響曲第四番、交響曲第六番、第四ピアノ協奏曲、ヴァイオリン協奏曲やラズモフスキー弦楽四重奏曲、数々のピアノソナタ、オペラ「フィデリオ」等の「傑作の森」を完成しています。まったく驚くべき創作力というべきでしょうか。努力する天才は同時にいくつもの仕事を併行しながら進めるもののようです。ベートーヴェンは「音楽は芸術だ」と言った最初の音楽家で、音楽は全ての芸術の中で最も尊い芸術であり、また芸術とはあらゆる物の上に君臨するのだと信じ、彼はその考えを自らの作品を通じて訴えていったのです。ベートーヴェンは次の作品で何をしようかと注目している当時のウィーンの聴衆にも第五交響曲は驚愕を与えましたが、彼のすることが理解できない人も多かったのです。ベートーヴェンは23歳上のゲーテを終生崇拝していましたが、ゲーテはベートーヴェンの才能は高く評価したものの、強烈な自己主張と傲然たる態度に辟易としていたようです。ベートーヴェンの死後3年して21歳のメンデルスゾーンが81歳のゲーテに、この交響曲第五番の第一楽章を自分のピアノの演奏で聞かせたところ「これは一向に感動させない、ただ大仰なだけの音楽だ」ゲーテはこういったと伝えられています。きっと自らの作品である文学の力よりも言語の壁をのり越え人の心をつつベートーヴェンの音楽芸術の力に嫉妬したのだと思われます。今回の演奏会では第一楽章のみを演奏いたします。

J. シュトラウス：ワルツ 「美しく青きドナウ」 Op.314

「ワルツ王」といわれるヨハン・シュトラウス(1825-1899)の作曲、ウィーンを、いやオーストリアを代表する名曲。オーストリアの第二の国歌とも呼ばれているこの曲、初演の際は失笑を買い、危うく葬り去られるところだったのです。1866年にオーストリアとプロイセンが戦争し、オーストリアは負けてしまい意気消沈、元気を出すようにと男声合唱曲を注文されました。それがこの曲「美しく青きドナウ」、作詞者は警察官でいかめしい言葉が使われていて、ウィーンでの初演は不評、すでに300曲以上のワルツ作曲をしていたJ. シュトラウスの初めての失敗作となりました。三ヶ月ほどしてバリエで万国博覧会が開かれました。オーストリアは出品物のひとつとして、シュトラウスとその楽団を送り込み、特設会場を作ったら、当たりに当たって連日大入り満員となりました。300曲を越すレパートリーも底をついたため窮余の一策としてシュトラウスは失敗といわれたこの曲から歌詞を除きオーケストラのみのものに作り変えて演奏したところ爆発的な評判になりました。改版は直ちにウィーンにもどり彼の代表作となりました。20世紀の終わりウィーンのドナウ川に面した道路で見たのですが、冒頭ホルンで演奏されるこの曲の有名なテーマの楽譜がマンホールの蓋に浮き彫りになっていました。

メンデルスゾーン：交響曲 第四番 イ長調 Op.90 「イタリア」

メンデルスゾーン(1809-1847)は才能、教養、総合的实力、作品の数の多さ、音楽的業績どれをとっても超一流なのにもかかわらず現在非常に過小評価されている作曲家ではないかと思われます。音楽史では野垂れ死にしそうな作曲家が多い中、金に全く苦労しない銀行家の長男として生まれ、モーツァルトに匹敵する神童にして幼少から家庭教師により多方面の厳格かつ高等教育をうけるという音楽家は実に稀な存在なのです。

彼は身長167cm、ほっそり型、高い額、柔和で洗練された表情、礼儀正しく優雅なブルジョワ青年、絵画の才能もすばらしく、芸術一般の教養も申し分なしという人もうらやむサラブレッドでしたが残念ながら38歳の若さで亡くなりました。過労死(クモ膜下出血)とのことです。メンデルスゾーンが12歳のとき音楽の師ツェルターに連れられてゲーテに引き合わされました。メンデルスゾーン少年を紹介された72歳のゲーテはその才能に熱狂し、その後メンデルスゾーンが彼のもとを訪ねるたびに歓待して勇気付けました。たぶんモーツァルト(1756-1791)の再来と見ていたのでしょう。この現場からモーツァルトという一時代前の人という感じですが1749年生まれのゲーテは実はモーツァルトより7歳も年上なのです。メンデルスゾーンは家系的にはユダヤ系ドイツ人ですがその作風にはユダヤ人的アクの強さもドイツの剛直さ、素朴さも感じられません、明晰な優美さ、フランスの良さがいつも支配しています。

1830年5月メンデルスゾーンは住んでいたベルリンを後にイタリア旅行に出ました。ベルリンにいる恩師ツェルターにあてた手紙の一節はメンデルスゾーンのイタリアにおける印象を伝えています。「樹々の緑が美しく映える夕暮れの見事さ。樹々の枝にはさながら天使たちの舞う想いです。・・・」そしてこの旅のうちにこの交響曲「イタリア」は形をなしてきました。ベートーヴェンのあずかり知らぬ「運命」とは違ってイタリア交響曲は最初からメンデルスゾーン命名によるものです。「イタリア交響曲の作曲は順調にすすんでいます。これはこれまでの私のどの作品より楽しい曲になることと思います。」と手紙の中で彼は書いています。非常に念入りな推敲のため初演は二年後1833年ロンドンで行われましたが、メンデルスゾーンは出来栄に満足せずその後二度にわたって改作し第三稿は彼の死後遺稿として発見されました。

第1回 笛吹音楽祭 主な日程

11/23 (金)

13:00 参加者受付開始

14:00 オープニングコンサート

15:30 全体ミーティング

16:00 オーケストラ練習開始

18:00 自由時間（食事・ロビーコンサート）

19:00 練習開始

11/24 (土)

9:15 全体ミーティング

9:30 練習開始

11:45 自由時間（食事・ロビーコンサート）

13:45 練習開始

17:45 自由時間（食事・ロビーコンサート）

19:30 練習開始

11/25 (日)

9:15 全体ミーティング

9:30 練習開始

12:00 和太鼓演奏

13:00 自由時間（食事・ロビーコンサート）

13:30 オーケストラコンサート開場

14:00 オーケストラコンサート開演

16:30 懇親会

オーケストラコンサート出演者

指揮	藤原 義章
ヴァイオリン	蜷川 いづみ／安見 美代子／板倉 良広／小野 和隆／加藤 宏規／金本 裕子／菊地 暁子／古川 由布／小林 瑠美／滝口 修 佐藤 茜／塩田 陽一／鈴木 美代子／多田 廣之／中津川 友子／福波 典子／松上 一平／山縣 峰雄／山本 顕一
ヴィオラ	大橋 光男／小木曾 典孝／竹鼻 江美子／田中 晃子／南 彩子／村岡 優／森川 敬子／柳沢 永遠子
チェロ	尾上 敏起／神成 久敏／谷口 節夫／内藤 和子／宮崎 比呂志／持田 澄子／依田 秀樹
コントラバス	東 和夫／井上 陽／駒井 朗／中川 奈美
フルート	内村 和美／緒方 倫子／岡村 孝子／小田切 知恵／門野 富美子／益子 友里／松本 寛子
オーボエ	市江 雅芳／市川 智／柴田 和久
クラリネット	高野 歩／武田 勝正／渡辺 香織
ファゴット	生嶋 祐子／石原 郁子
ホルン	小田部 友香／嵯峨 琢子
トランペット	森山 秀一／渡辺 奈緒美
ティンパニー	内田 則彦
打楽器	内田 美沙子／大山 哲夫／白岩 聡

運営委員会

運営委員長	磯野 茂
運営副委員長	鈴木 美代子
運営委員	市川 智／大橋 光男／長田 小百合／尾沢 明彦／菊地 暁子／古川 由布／鈴木 直子／設和 幹／田中 晃子／田中 春美 土屋 雄一／内藤 和子／中川 奈美／中津川 友子／藤原 義章／松上 一平／山下 繁

協 力

石和高等学校ボランティア部

第2回 笛吹音楽祭

2008年11月22日(土)～24日(月・祝)

オーケストラ演奏曲：ベートーヴェン作曲交響曲第3番「英雄」ほか

募集：4月より10月31日まで全国に公募

募集楽器：ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット、ホルン、トランペット、ティンパニー